

最上川河口ごみ定点調査の結果について

山形県庄内総合支庁環境課

1 調査の概要

河川を通じて流出しているごみの実態を把握し、効果的な回収や発生抑制の資料として活用していくため、最上川河口部においてモニタリングを実施した。

調査は、河岸の一定区域に漂着したごみの品目別個数、全体のかさ容量及び重量について、100調査方式により実施した。

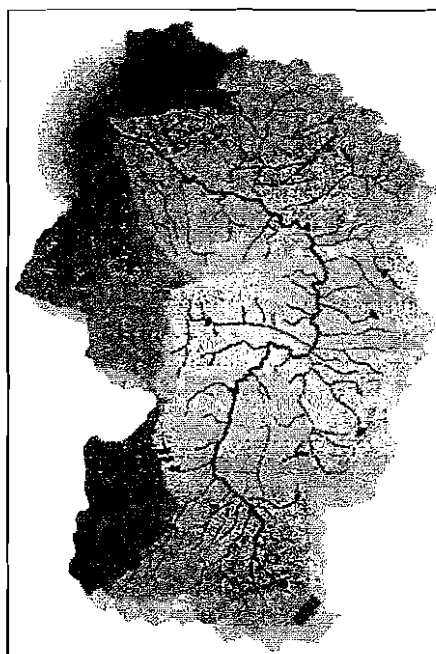
- ・調査日：平成19年5月から11月の間に6回実施
- ・調査地点：最上川河口から約1km上流右岸

※ 最上川

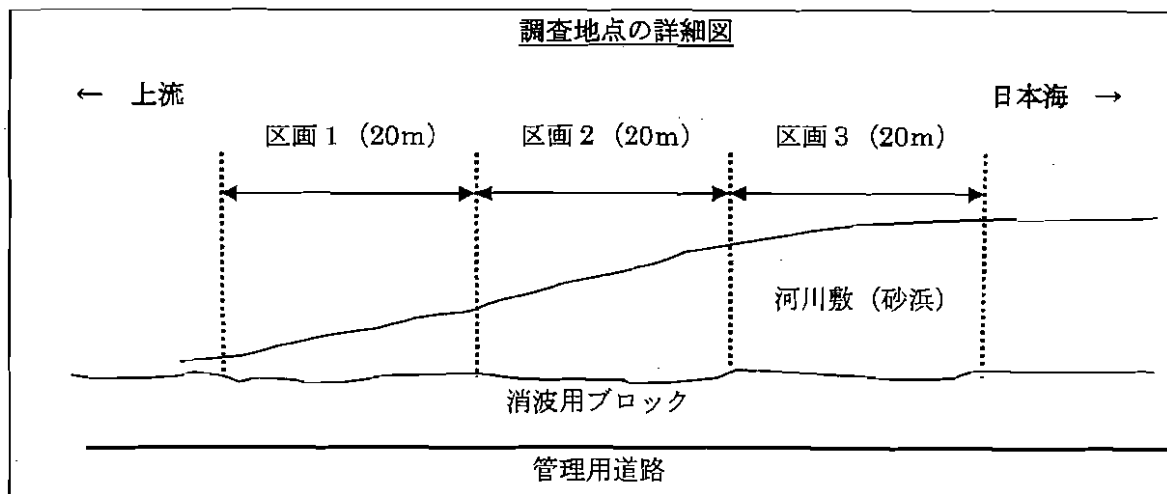
米沢市の西吾妻山を水源に、米沢盆地、山形盆地、新庄盆地、庄内平野を通過して河口の酒田市まで延長229km(全国7位)。流域面積7,040㎡(全国9位)で県土の約76%の流域面積を持ち、流域人口は約100万人で県人口の8割が生活する。



【現地写真】



【流域図】



※ 品目別個数調査は区画2において実施した。

2 調査結果等

(1) 調査期間を通じて恒常的に流出

各調査期間を通してごみの漂着があり、恒常的にごみの流出があることを示している。

(2) 日常生活から発生したごみがほとんど

品目別で見ると、日常生活で使用されているものが、回収したごみのほとんどを占める。

(3) 破片類が非常に多い

発泡スチロール、プラスチック等の破片類が非常に多く、河口に到達するまで長期間かかったことを示している。

表1-かさ容量、重量及び個数

調査日		かさ容量 (L)	重量 (kg)	個数 (個)
5/16		(130)	(12.28)	(757)
~6/21	I	65	5.64	752
~7/18	II	70	7.66	450
~9/12	III	49	8.38	1,019
~10/12	IV	47	5.39	946
~11/14	V	52	5.53	687

表2-品目別個数(I~V合計)

順位	品目	個数 (個)	割合 (%)
1	発泡スチロール破片	1,509	39.2
2	硬質プラスチック破片	687	17.8
3	プラスチックシートや袋の破片	411	10.7
4	食品の包装・容器	245	6.4
5	プラスチック類の燃えカス	174	4.5
6	吸殻・フィルター	151	3.9
7	ふた・キャップ	133	3.4
8	飲料プラボトル	84	2.2
9	生活雑貨	63	1.6
10	ロープ・ひも	48	1.2
	その他	349	9.1
	合計	3,854	100.0